

原子力産業セミナー2024 速報

2022年11月4日
(一社)日本原子力産業協会

原産協会は関西原子力懇談会と共催で、原子力産業界の人材確保支援と原子力産業への理解促進のため、合同企業説明会「原子力産業セミナー2024」を、10月15日(土)に東京・浜松町、10月29日(土)には大阪・梅田で開催した。学生集客増を狙って今年度は「エネルギー未来フォーラム」をサブタイトルとし、また新型コロナの状況を受け昨年に続き、学生が来場して参加するだけでなく、Web 経由で企業の説明を聞くことができるようにした。また、出展社も Web 経由での出展が可能とした。

東京と大阪会場には、合計 473 人の学生が参加し(昨年度 380 人、昨年度比 24%増)、2012 年度以降、最高の参加者数となった(下記グラフ参照)。東京会場では 87 校から 258 人が参加(昨年度 86 校・202 人)、大阪会場では 62 校から 215 人が参加した(昨年度 53 校・178 人)。うち、会場に来場した学生は東京 227 人、31 人がオンラインで参加した。大阪会場ではそれぞれ 184 人、31 人であった(いずれも速報値)。

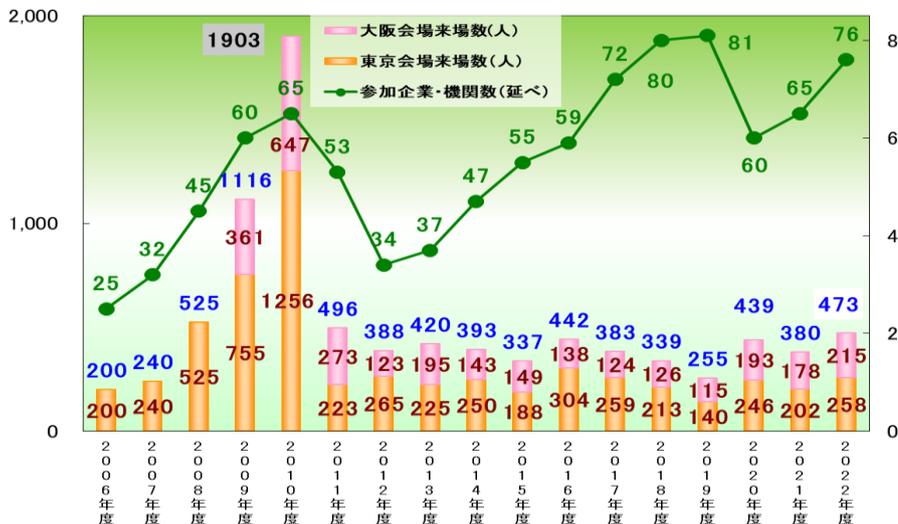
新型コロナ感染のため、対面式の就活セミナーは減少しており、対面・オンラインのハイブリッド方式をとる本セミナーの価値が高まっていると考えられる。

出展企業・機関数は 76 社(昨年度 65 社)となり、昨年度より 11 社増加した。東京会場は 42 社(昨年度 37 社)大阪会場が 34 社(昨年度 28 社)。Web 方式のみで出展したのは、東京 2 社、大阪 2 社であり、出展者の 95%は対面方式を選択した。コロナ禍の下ではあるが企業側も対面式のセミナーを愛好する傾向がある。

1. 概要

() 内の数字は昨年度

	東京会場	大阪会場	
開催日	2022年10月15日(土)	2022年10月29日(土)	
開催場所	東京都立産業貿易センター(浜松町館) イベントホール	梅田スカイビル アウラホール	合計
参加学生数	258人(202人)	215人(178人)	473人(380人)
参加企業・機関数	42社(37社)	34社(28社)	76社(65社)



原子力産業セミナーの来場学生数、参加企業・機関数の推移

2. 参加企業・機関一覧

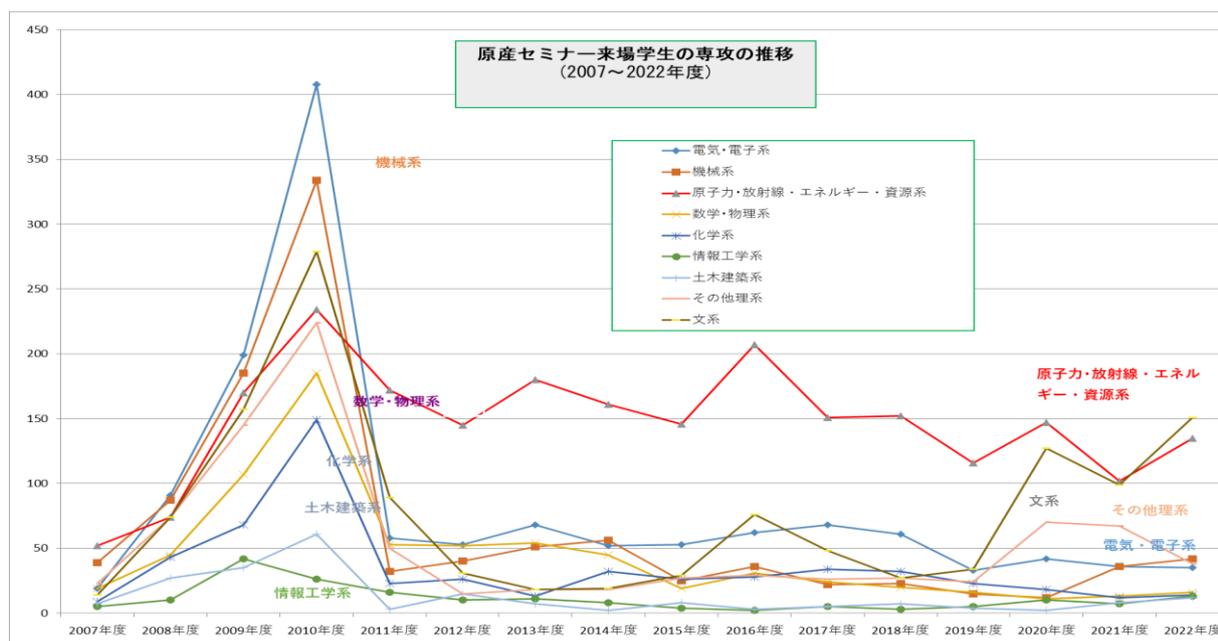
出展企業・団体 (*は初出展の企業、web参加は対面との併用を含む)		
電力関連企業	東京	大阪
1 東京電力ホールディングス	中	中
2 中部電力	中	中
3 関西電力	中	中
4 中国電力		小
5 J-POWER(電源開発)	中	
6 日本原燃	中	中
7 東京パワーテクノロジー	中	
8 東電設計	中	中
9 テプコシステムズ	中	中
10 原燃輸送	中	中
11 関電パワーテック		中
12 関電プラント	中	中
重電メーカー		
13 日立製作所	中(Web)	中(Web)
14 三菱重工業	中	中
15 東芝(東芝エネルギーシステムズ)	中	
16 IHI	小	小
プラント・エンジニアリング企業等		
17 アトックス	中	中
18 MHI NSエンジニアリング	小	中
19 オー・シー・エル		小
20 関電工	中	
21 木内計測 ※	小	小
22 クリハラント	小	小
23 Blossom Energy ※	中	中
24 グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン	中	
25 原子燃料工業	中	中
26 原子力エンジニアリング		中
27 新日本空調	中	
28 セイコー・イージーアンドジー	小	
29 千代田テクノル	小	小
30 TVE(旧：東亜バルブエンジニアリング)		小
31 東京エネシス	中	小
32 東芝プラントシステム	中	
33 ナイス ※	小	
34 日揮グローバル	中	中
35 日本環境調査研究所	小	小
36 日本原子力防護システム	中	中
37 NESI	小	小
38 日立プラントコンストラクション	小	小
39 BWR運転訓練センター	中	
公益、独立行政・研究法人		
40 ITER 日本国内機関(量子科学技術研究開発機構)	中(Web)	中(Web)
41 原子力安全推進協会	中	中
42 原子力規制委員会 原子力規制庁	中	中
43 原子力人材育成・確保協議会	大	
44 原子力発電環境整備機構(NUMO)	中	中
45 電力中央研究所	小	
46 日本アイソトープ協会	中	
47 日本原子力研究開発機構	中	中
	42	34

3. 原子力産業セミナー2024の主な特徴と来場学生のプロフィール

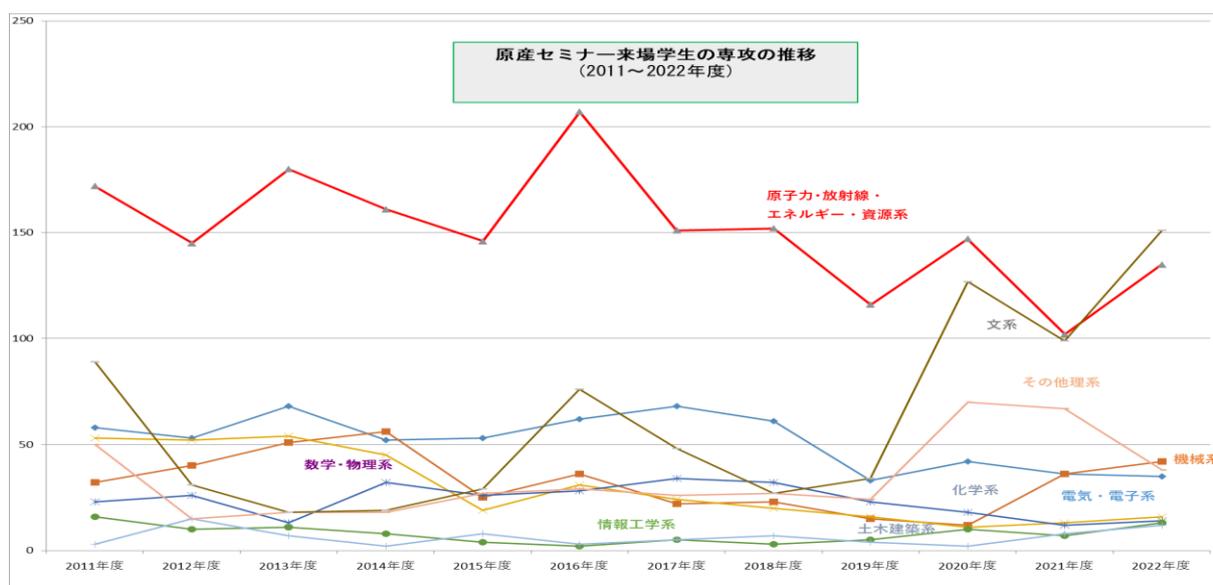
東京・大阪の両会場及びWebで参加した学生のプロフィールは以下の通り。

- ・ 会場に来場した学生は合計411名(87%)、Web参加の学生は62名(13%)。Web参加学生は当日来場できない学生の他に関東・関西以外の大学からの参加者があった。
- ・ 会員企業のニーズを踏まえ、理系学生を中心に集客を行ったが、文系学生も多く来場したため、東京・大阪会場の理系比率は64%(昨年度71%)となった(理系学生数は305名(昨年度270名))。また企業から人気の高い第二新卒(既卒)も参加。
- ・ 女性来場者の割合は24%で、昨年度(27%)よりやや比率が低かった。

年度別での学生の専攻(人数)の推移は以下の通り。



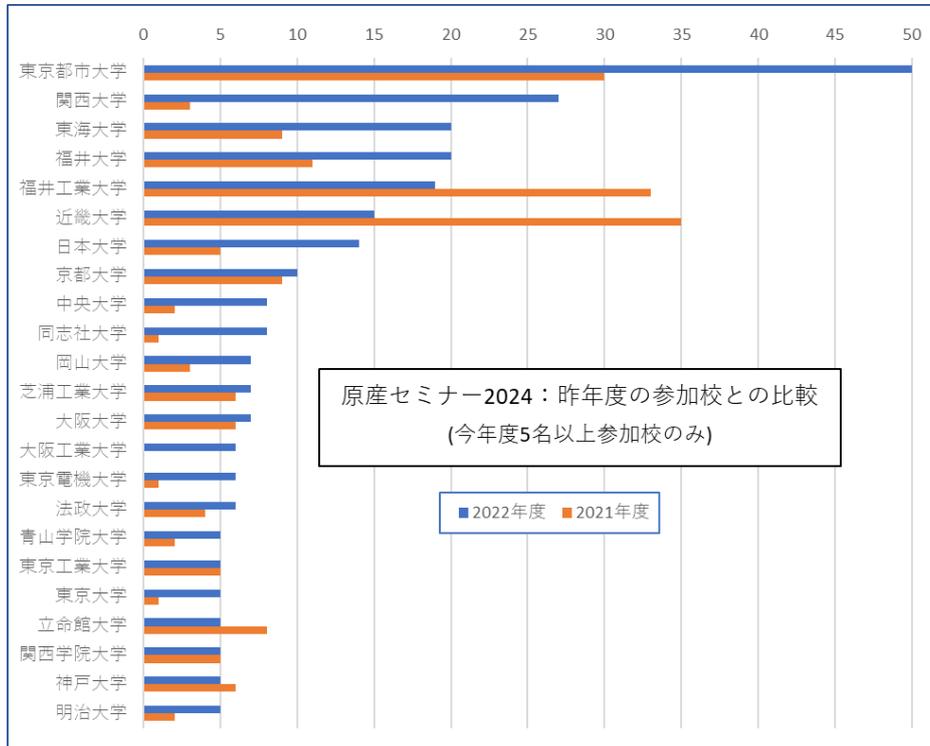
(2011年度以降の推移)



*学科の大括り化のため、原子力系の一部は電気・電子系としてカウントされている。また文理融合学科や環境学科等の従来なかった理系学科は「その他理系」にカウントしている。

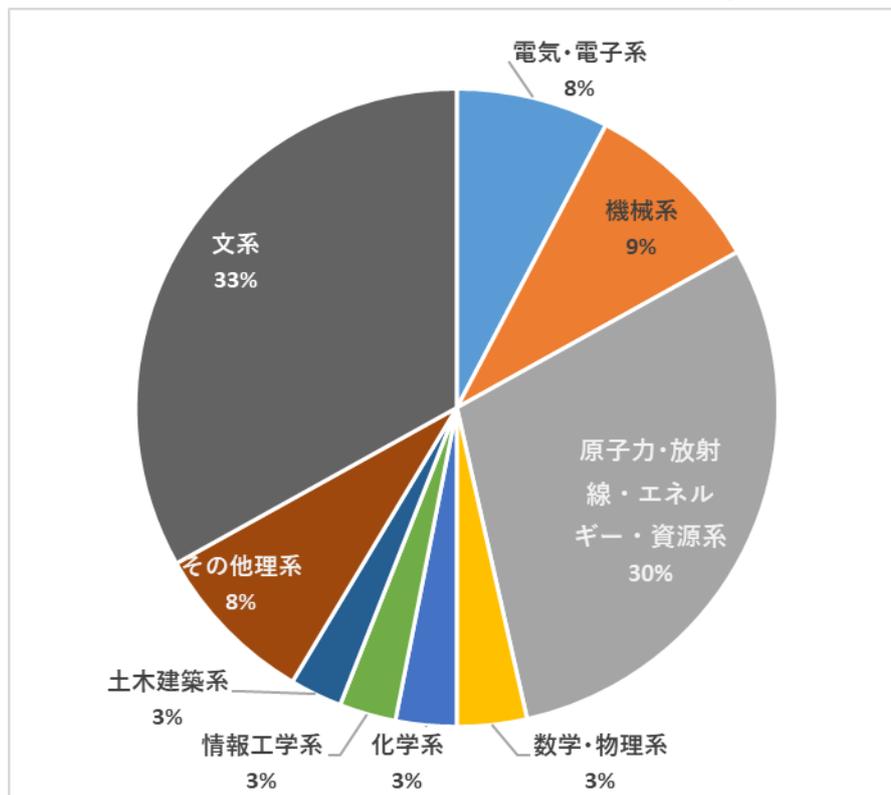
4. 来場した学生の所属校（グラフは東京+大阪で今年度5名以上の参加校のみ）

今年度の原子力産業セミナー（東京、大阪、Web）には131校の大学等（昨年度124校）から473名（昨年度380名）の学生・既卒が参加した。下記に今年度の5名以上参加校と昨年度との比較を示す（青は今年度、赤は昨年度）。最多は東京都市大学、次いで関西大学、東海大学、福井大学、福井工業大学だった。



5. 学生の専攻

今年度、東京・大阪会場に来場した学生の専攻の割合は以下の通り。



*学科の大括り化のため、原子力系の一部は電気・電子系としてカウントされている。

6. 参加学生の声（東京）

原子力産業への理解

- ・ 今まで調べた事のない業界だが業務内容に惹かれた（東京・対面）
- ・ 文系でもエネルギーや、原子力の分野に携わることができるということを知ることができた（東京・対面）
- ・ 核分裂だけでなく核融合についても民間で取り組んでいる企業について知ることが出来た（東京・対面）

働く場としての原子力産業

- ・ 文系でもやりがいをもって働けそう、文系も活躍できそうだと思う。説明がとても丁寧で非常に魅力的に感じた（東京・対面）
- ・ 原子力発電に関わる仕事がこれだけあるのか、このような仕事があるんだと知ることができた（東京・対面）
- ・ エネルギーや原子力の分野に特化した企業さんが多数参加する中で、その企業の魅力や強みを知ることができたことが大きい（東京・対面）
- ・ 福島第一原子力発電所の廃炉に関する実績があり、今後も継続して取り組むことがわかった（東京・対面）

原子力産業への就職意欲

- ・ 原子力発電所の日本のエネルギー安定供給への影響の大きさを知り、関連する発電所で働くことに興味を持った（東京・対面）
- ・ 新入社員になった時の研修があることや、福利厚生、仕事内容などを説明していただいたので、具体的なイメージを持つことができた（東京・対面）
- ・ 原子力で就職するのにも色々な種類、企業があってそれぞれが未来を見据えていることを感じる事ができた（東京・対面）

企業の印象

- ・ 技術や知識が豊富な社員が多い。業務内容が先鋭的（東京・対面）
- ・ 今研究している内容を活かそう（東京・対面）
- ・ 小型モジュール炉に対して質問をして、色々な意見を聞けてとてもいい雰囲気だった（東京・対面）
- ・ たくさんの企業説明を聞くことで、徐々に原子力エネルギーについて知識がついてきて、日本がリードする技術にワクワクした（東京・対面）
- ・ 製造現場の実体験を混ぜた体験談がリアリティがあってイメージをしやすいかった（東京・対面）
- ・ オンラインではなく直接話すことで、社風をイメージする助けになった（東京・対面）

以上